

東京都足立区立第六中学校

第1学年「社会人の話を聴く会」出張授業資料

働くということ(働く意義・職業観)

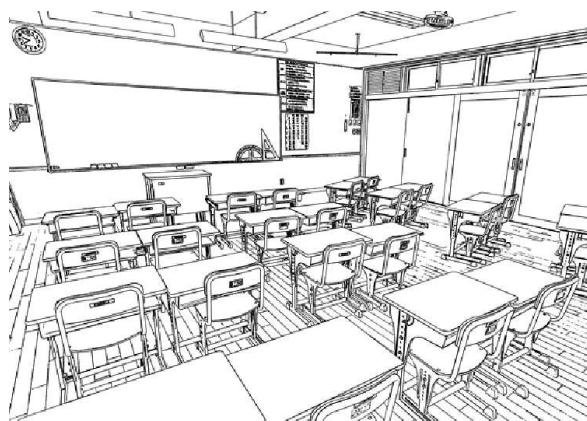
—「人生は青天井、一生青天井」「一生勉強、一生青春」—

2024年11月1日(金)

13:25~14:15

(講演・質疑応答含む50分)

1学年各教室



開倫塾

塾長 林明夫

開倫塾日本語学校理事長・校長
公益社団法人 経済同友会 会員

Q 1 : 仕事とは何ですか。仕事をする上で大切なことは何ですか

A : (1)すべての仕事には、「お客様」がいます

○仕事をする上で大切なことの第一は、だれがお客様かをはっきりさせることです

(2)「仕事」とは「製品(もの)」や「サービス」を「お客様」に提供し、「お客様の困っていることや問題を解決」、「お客様のお役に立つ」ことです

(3)同じように困っているお客様が、世の中にはたくさんいます。そこで、「仕事はお客様や世の中のお役に立つこと」と考えます



＜ここでちょっと一休み「コーヒブレイク」です＞

皆様の興味のある「仕事」は何ですか。その仕事の「お客様」は誰ですか。下に書いてください

(1)仕事

(2)そのお客様

Q 2 : 「製品(もの)」や「サービス」をお客様に提供するときを考えなければならないことは何ですか

A : (1)「製品(Product プロダクト)」や「サービス」が「お客様の問題の解決」になっているか

(2)「価格(Price プライス)」がお客様にとって求めやすいか

(3)「場所(Place プレイス)」がお客様にとって便利か

(4)「広告宣伝(Promotion プロモーション)」がお客様とのコミュニケーションになっているか

この「4つのP」を「マーケティングの4P(よんぴー)」といいます。仕事をする上でとても大切です



Q 3 : 仕事をする上での「厳しさ」とは何ですか

A : (1)世の中がどんどん変化し続けるので、お客様の困っていることや、お客様の欲しいものがどんどん変化し続けることです

○その変化に対応した「製品」や「サービス」を提供し続けるのは困難を極めます

(2)競争相手がどんどん出てきます

○日本だけでなく世界から競争相手が登場します

(3)超少子高齢化の中で「人手不足」が深刻になっていることです

○仕事をしたくても働く人が少なくではよい仕事ができないからです

Q 4 : 人はなぜ、仕事をするのですか、働くのですか

- A : (1)「製品(もの)」や「サービス」を提供して、お客様や世の中のお役に立つためです
(2)生活できるだけの収入を確保するためです
(3)仕事を通して、自分の夢や希望を実現するためです(「自己実現」)



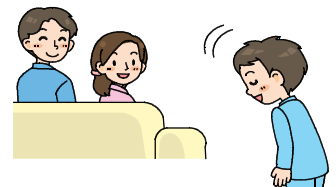
Q 5 : 職場体験をするときの心構えは何ですか

- A : (1)その仕事、職場では、どのような製品やサービスをお客様に提供しているのかを知ること
(2)提供する「製品」や「サービス」の「お客様は誰か」を知ること
(3)①お客様はなぜその「製品(Product)」や「サービス」を買い求めるのか
ーお客様の困っていることは何かー
②どのくらいの「価格(Price)」で提供しているのか
③どのような「場所(Place)」で提供しているのか
④どのようにその「製品」や「サービス」の「広告宣伝(Promotion)」をし、お客様に知らせているか
○「マーケティングの4P」を参考に職場体験をしてください



Q 6 : 学校の勉強は役に立つのですか

- A : 役に立ちます。すべて役に立ちます。役に立たないことは一つもありません
- (1)①中学校で学ぶすべての教科の内容は、すべて高校で役に立ちます
②高校で学ぶすべての内容は、高校卒業後に進学する、「大学や短期大学、専門学校、専修学校」で役に立ちます
③学校卒業後、「仕事」や「社会的な活動」「日常生活」「よく生きる」上で役に立ちます
○役に立たないことは、一つもありません
- (2)①ですから、中学・高校で使う「学校教科書」「辞書」「地図帳」「年表」「授業ノート」などは、学校卒業後も決して処分しないこと。
②大切に保管し、折に触れ、読み直し、「学び直す」。
③「一生かけて、学び直す」ことをおすすめします。
- (3)①中学・高校で行われる「教科外教育活動」つまり、学校行事(入学式、卒業式、始業式、終業式、宿泊体験、修学旅行、運動会や体育祭、芸術鑑賞)、ホームルーム当番、委員会、生徒会活動、部活動などもすべて役に立ちます。
②日本人が礼儀正しく、お互いを尊敬し合い、相手の立場を思い合い、規律正しく行動することは、「教科外教育活動」の成果と高く評価されています。
③積極的に参加してください。



Q7：最後に「効果の上がる勉強の仕方」についてお話しください

A：(1)社会に出て仕事や社会的活動をするときにも、新しいことを学ぶことがたくさんあります。中学校・高校時代に効果の上がる学習の仕方を少しずつでも身につけてください

(2)一番大切なのは「授業」です。ただし、学年が上がるに従って、「授業」の内容が難しくなってきますので、「予習」と「復習」をすることをおすすめします

(3)①「予習」とはこれから学ぶ「教科書」や「教材」を授業の前にたとえ5分でもいいから学ぶことです

②次の授業で何をするかを「^{あらかじ}予め」知ることを「予習」といいます

③各教科でこれから学ぶ大切な「語句(用語)」だけでもチェックし、その意味をノートに書き写しましょう

④「教科書を声を出してゆっくり読むこと」もおすすめです

⑤「よく意味のわからないことば」は「気持ちが悪い」と考え、辞書で意味を調べる

⑥「教科書の問題」をノートに解く。そして、

⑦「何がわからないかをはっきりさせて授業に臨む」のが、「予習」です

(4)授業中は手を机の上に置き、先生のお話をよく聞くこと

「大切なことはすべてノートに取る」

○「大切なことをノートに取れる」ことは極めて高い言語能力です

○「仕事中には、大切なことをメモし続ける」。そして、そのメモを見ながら仕事をすることが求められます

(5)①授業後は、その日の「授業」を思い出しながら、もう一度「教科書」や「授業ノート」を読み直す。計算や問題は、もう一度やり直し、学んだことを「理解」する

②これを「復習」といいます

(6)「理解」できたら、次は「^{ていちゃく}定着(身につける)」

①「音読練習」をくり返し、スラスラ読めるようにする
大切なことは何も見ないでいえるようにする「^{あんしょう}暗唱」

②「書き取り練習」

③「計算・問題練習」

(7)このようにして「深い理解」を目指す

「深い理解」とは、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」

(8)仕事に必要なことを学ぶときにも、「予習」「授業」「復習」「定着」を行い、「深い理解」「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ようにすることを目指してください

○中学・高校で身につけた「勉強の仕方」は、学校卒業後もすべて役に立ちます

